

『筑南小中学校のあり方を考える会』便り

第4号

R3. 4. 15

筑南小中学校のあり方を考える会 会長 大石 官

※ このチラシは、筑南校区（白木・北山地区）の皆様には配布しています。

「筑南小中学校の今後のあり方についての意見交換会」の報告

若葉の緑が目にも鮮やかな季節となりましたが、皆様におかれましてはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、便り3号で案内申し上げていましたが、昨年度末の3月29日に「筑南小・中学校の今後のあり方についての意見交換会」を筑南小学校体育館で行いました。コロナ過ですが、感染対策を十分取り、会員及び地域住民30数名に参加いただきました。

学校の統廃合の現状として、旧八女市の川崎小学校区や八幡小学校区では筑南校区以上に緊迫した状況にあり、住民による会議や市への陳情が行われていることの報告がありました。交換会では、それを受け、今後の学校のあり方だけでなく、地域のあり方についてまで熱く語り合うこととなりました。

以下、参加者の意見をまとめてみました。十分表現できていない部分もありますが、ご了承ください。

《小中学校の統廃合について》

- 子どもの視点で論議しよう。ボトムアップでいきたい。
- 同じ友達と9年間は長すぎるのではないか。幅広い交流がない。
- 1学年20名以下の学級は問題だ。やはり合併すべきだ。
- 子どもが多いから教育効果があがるとはいえない。
- 好きな運動クラブがないというが、合併してスクールバスによる登下校になったら、さらにクラブの時間が制限され今以上に好きなクラブに入れるとは限らない。
- 立花小中学校に統合されるより福島小中や三河・南中の方が近いし便利だ。
- 子どもが減らないなら廃校はないというが何名までなら大丈夫か。
- とりあえず、複式学級になると危ない。

《地域作りについて》

- 保護者はどう考えているのか、意見を聞きたい。 アンケートをとれば。
- PTAでも話し合っしてほしい。
- 保護者も数年すると小中学校の保護者でなくなる。この問題は、地域で考えるべきではないか。
- 5年後～10年後を見据えて論議しよう。
- 若い人がいなくなるから子どもが減る。若い人が出て行かない地域にすべきだ。
- 北山に団地は出来ないか。八女や広川に住んで、白木に働きに来ている人もいる。
- 人を減らさない地域作りについては、振興会議でも議題としてほしい。

今回の交流会では、方向性は出ませんでした。多くの考えの交流ができました。各地区でも参加された方を中心に地域の話題として広げてほしいと思います。